

震災を乗り越えて ー復活した郷土芸能ー

二通りの授業展開を踏まえ

1 はじめに

1年生担当教師から表題のタイトルにおける道徳の授業について相談を受けました。本市の郷土芸能としては、伊勢神楽、石取祭ばやしなどがあります。しかし、これらに関わっていたり見物したりしている生徒は限られていると考えられます。これまで学んできた道徳の授業展開のうち、資料から深く読み取ることを中心にする授業展開で考えてみました。

2 二通りの授業展開について

これまで学んできた道徳の授業展開は次の二通りでした。今回はイ)の方法で進めます。

ア) 資料から道徳的価値について考えた後、それを踏まえて、自分の生活を振り返る。自分の生活の振り返りでは、主題にかかわるエピソード(いつ、どこで、どんなこと)を書き、「その時の気持ちや考え」、「今思うと」、「今の課題は」を書く。

イ) 自分の生き方を絡めながら資料を深く読み取り、道徳的価値について意見を交流する。そんな中で、自分がずっと考えてきたこと(自分がこだわって考えてきたこと)を、終末の感想に書く。終末の感想では、自分の生活を振り返って今日の授業の感想を書きなさいとは言わない。「学んだことを書こう」と指示するだけである。

3 教材について

- 1 教材名 震災を乗り越えて ー復活した郷土芸能ー
- 2 教科書 あすを生きる1(日本文教出版)
- 3 主題名 郷土芸能を伝える
- 4 内容項目 C-16 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
- 5 目的 郷土によって育まれてきた伝統と文化のよさを理解し、郷土への誇りや愛着をもち、郷土に対して主体的に関わろうとする心や態度を育む。

6 授業展開

(1) 導入

T:「今日は郷土芸能や伝統文化について考えます。」

質問1 「ところで、芸能って何? 日本の芸能って何?と聞かれたら、何を思い浮かべますか?」

→ 歌舞伎、能、落語、…

質問2 「では、桑名の芸能、桑名の伝統文化にどんなものがありますか?」

→ 伊勢神楽、石取祭ばやし、くわなの千羽鶴、…

これらについて、簡単に説明する。

(2) 展開

発問1 長谷川さんや長洞さんは、どうして郷土芸能を復活させたかったのだろう。

p130 ㊟ ^{ナガホラ}文化祭で郷土芸能を発表してきた。30年以上続いた。

㊟4 自分たちが卒業してしまえば、大事に受け継がれてきたものが途絶えてしまう。

→ なぜ?

質問 本校では、生徒会が中心となってAIP活動を行っており、16年以上も続いている。

皆さんはAIP活動を経験している。来年、何らかの理由でAIP活動がなくなったとして、3年生になったときにAIP活動を復活させたいと思うだろうか。なぜ、そう思うのだろうか。

p131 ㉒ 文化祭で発表した。そのときの誇らしい気持ちや、地域の人たちが喜んでくれた姿が忘れられない。

皆さんは、何かをやりきった経験はありますか。その経験からもう一度やりたいと思いますか。
皆さんは、何かをして誰かに喜んでもらった経験はありますか。
その経験からもう一度やりたいと思いますか。

質問 p132 ㉓ すべての演目が終わったあと、大きな拍手が沸き起こった。そっと涙を拭う人もいる。笑顔の人もいる。拍手を受ける生徒たち全員が、照れくさそうでありながらも輝いていた。

→ ここから読み取れることは何ですか。

中学生が地域の伝統文化を受け継ぐことで、地域の人たちがいかに喜んでくれるのかということを経験した。

発問2 p132 ㉔ 文化祭のあと、^{ナガホラ}長洞くんはこう振り返った。
㉕ 後輩たちには、これからも自分たちの郷土芸能を自分たちの手で伝えてほしいと思います。
^{ナガホラ}長洞くんはどうしてこう思ったのだろう。

(3) 終末

指示 「学んだことを書きましょう。」 ワークシートに書く。

石取り祭り、くわなの千羽鶴の伝統を継承するための取り組みを紹介する。

(4) その他の発問

p131 ㉒～ 「自分たちも一回しか経験していないのに…」

「しかも、あのときは先輩たちの後について、教えられるままにやっていたから…」

やりきれんかという心配はなかったのだろうか。3年生はやれる自信がなさそうだけでも、復活させたいと、どうして思ったのだろう。

7 おわりに

実践者に授業の様子をうかがいました。

授業の導入と終末は少し変えました。特に、終末では自分の体験談を話しました。展開は概ね指導案通りです。生徒たちはそれぞれによく考え取り組みました。日頃の授業でもそうですが、個々の能力が高いこともあってか、班での交流に課題が残りました。

班の形で取り組むのは課題を解決するためだけではありません。他の人の意見を聴くということも目的の一つです。特に、道徳の授業では、正解が一つではないことから、自分とは違った意見を聴くことが重要です。自分と違った意見を聴く可能性が高いのは、自分とはかけ離れた存在です。身近にいて、自分とはかけ離れた存在は、異性ではないでしょうか。男女混合班の意味がここに 있습니다。また、班単位、クラス単位で考えてみると、友だちの意見を聴くとは、各自が自分の意見を伝えるということでもあります。クラス全員が自分の意見を伝えるには、班やペアが最適です。こういった意識をまずは教師が持つべきです。折に触れ、生徒たちにも発信すべきだと考えています。

いずれにしても、経験の少ないことについて考えさせるのは、とても難しいです。